

ムスピの会ニュース

発行
ムスピの会
11 月の月齢

下弦	11/5
新月	11/13
上弦	11/20
満月	11/27



カタカムナの知恵に学ぶ (1)

場のエネルギーを整える 前編

古代文明の遺産カタカムナ

超古代文明の遺産といわれるカタカムナは直感物理学とか潜在物理学といわれ、近年いろんな本が出版されています。日本の物理学者で電気技術者でもあった榎崎皐月氏がカタカムナ文字で書かれた巻物の解説に成功し、その後、榎崎氏の後継者である宇野多美恵氏が「相似象会誌」として研究結果をまとめています。

カタカムナは八十首のウタヒと言われる謡（七五調のウタ）から構成されていて、宇宙のしくみや法則が語られています。これを紐解くことで、現在の環境問題や人口問題、飢餓問題、エネルギー問題などによる閉塞感のある物質文明を精神性の高い調和の世界に脱皮させる糸口が得られると思われるます。

大地の電位が及ぼす影響

マクロビオティックは食物を陰陽のバランスを取りながらいただく食物生理学であると同時に、その土地のもの、旬のものを丸ごといただく環境生理学でもあります。ただ、どこで食べるのかという場のエネルギーの考え方はあまり語られてきませんでした。同じお弁当でもハイキングで食べるのと、自宅で食べるのでは違った感動があります。これと同じようにどんな場所で食事療法を行うのかということが大事になってきます。味噌や糠漬けといった発酵食品も、発酵がうまく進む場とそうでない場が

あるのは、大地の電位の違いによるからです。

榎崎皐月氏は日本全国の大地電位（電気の流れ）を測定して回り、伊勢神宮と皇居のある場の電位が特に高かったという報告をしています。ドイツの研究でも大地の微細な電磁場環境が崩れることによって心身に不定愁訴のような症状が現れることがわかっていて、これをジオパシックスストレスといいます。大地の電気の流れが人間の心身の健康状態に影響を与えるということです。

大地のエネルギーの高いイヤシロチ

カタカムナ由来の言葉にイヤシロチとケガレチがあります。イヤシロチはイヤ（いよいよ）シロ（新陳代謝）がチ（持続・継続する場）という意味で、電気的には還元電圧地（高電圧地）といいます。一方、ケガレチとはケ（気）カレ（枯れ）がチ（持続・継続する場）という意味になり、酸化電圧値（低電圧地）をとらえます。昔の人は大地のエネルギーが直感的にわかったのです。

イヤシロチはそこにいると再生や修復力、洗浄力や解毒力、浄化力、排泄力といった若返りの力がみなぎる場所で、腸内は発酵菌（善玉菌）が優位になり、気の流れがよくなるため頭がスッキリしてひらめきやインスピレーション、気づきといった直感感性が冴え渡ります。その場所にいると癒やされる感覚が湧き、イヤシロチという言葉から「イヤシ（癒やし）」という言葉が生まれました。古代人は、そんなヒーリングパワーの高い場所にヤシロ（社）を立てて守ってきたのです。

悪影響を及ぼすケガレチ

一方、ケガレチは何となく落ち着かない雰囲気、漂い、そこから早く退きたくなる場所で、劣化や老化、汚れが溜まる、臭い匂いが立ち込める、成長発育が鈍くなる、腸内に腐敗菌（悪玉菌）が増えるといった老化（酸化）現象が起こりやすいです。気分も塞ぎがちになり、気分が落ち込んだり、気力が萎えたり、やる気が失せたり、感受性が鈍くなったりといった状態になったりします。植物の生育も悪く、湿気が溜まりやすく、風の流れが悪い場所です。「穢れる」という感覚はこのケガレチという言葉が語源といわれています。

交通事故が絶えない魔の交差点や踏切はケガレチに位置しています。経営者が次から次へと入れ替わり、流行らないテナントも同じです。病院でも場のエネルギーの高低によって、治療能力に違いが出てきます。学校では学力に、工場では生産力や製品の優劣に差が出てきます。マクロビオティックの食事法も同じで、どんな場で食べるかということが、体質改善に大きく影響してくるのです。

カタカムナの様々な技法

カタカムナの技法には、大地のエネルギーの流れを整える炭素埋設や整理整頓、掃除などによって場を浄化する美感電圧の考え方、生育環境の違いや温度落差などの電位差によるエネルギー増幅法である対向発生（アマウツシ）、液体と固体、気体を混ぜてコロイド化することで還元電位を発生させる泥練りの技法（ミトロカエシ）といった環境電位を整えるさまざまな技法があります。また、カタカムナウタヒを唱えることでも場のエネルギーが浄化されます。次からは、これらの場のエネルギーの整え方を詳しく解説していきたいと思います。

月のリズムで心と身体を健やかに

私たち地球上の生命は月の影響を受けています。例えば、カニやウミガメ、珊瑚は満月の夜に産卵し、植物の成長や私たち人間の生（出産）死にも月のリズムが関係しています。昔の人は、月が生命に与える影響を感覚的に知っていたからこそ自然のリズムにそった暮らしをしてきました。自然のリズムを無視し便利になった現代、多くの人が心身になんらかの不調を感じています。生活の中に月のリズムや旧暦、二十四節気を取り入れ、自然と一体となり、健やかな心とからだを手に入れましょう。



岡部賢二監修

月のリズムで幸せ暦

A4 サイズ（閉じた状態）

28 ページ・オールカラー

販売価格：1,400 円（税込）

おすすめポイント

- ① 新暦と旧暦表示のダブル表示なので実生活でも使いやすい。
- ② 月の周期や土用の期間をいれているので体調管理に便利！
- ③ 各月のメモのページには、健やかに過ごすヒント（季節の養生法）を掲載。
- ④ 新月・満月におすすめなことをアイコン化（デトックス食や塩浴など）しているので、定期的なプチ断食をしたい方にもおすすめ！
- ⑤ 裏表紙には玄米甘酒や梅醤番茶などのレシピつき



月の周期に合わせて美容院や旅行の予定を立てたり、お掃除や仕事をするのもいいですね。

太極図など幸せ暦（カレンダー）にはない情報も掲載しています。

旧暦（太陰太陽暦）

中国が起源。太陽と月の両方の周期を取り入れた暦。月の満ち欠けをもって1ヶ月とする。新暦（太陽暦）より11日短くなり、季節がずれるので、32~33ヶ月に一度うる閏月（うるうづき）を設けることで、ずれを調整。今でも農業や漁業で活用されています。

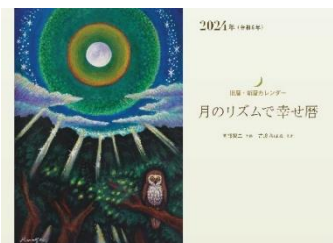
新暦（太陽暦・グレゴリオ暦）

古代エジプトが起源。太陽の運行をもとにした暦。地球が太陽をひと回りする周期を1年とする。季節の流れには忠実だが、月のめぐりとは関連していないため、月の周期に影響される潮の動きや動植物の変化がわかりにくい。日本では明治6年から採用。現代のカレンダーの殆どを占める。

新暦と旧暦って
何が違うの？



好評につき残り僅か！



岡部賢二監修

月のリズムで幸せ暦

A4 サイズ（閉じた状態）

28 ページ・オールカラー

販売価格：1,400 円（税込）



ムスピの会 HPはこちら